



遊びや生活を通して、  
子どもの豊かな言葉をはぐくむ調査研究 I

# 幼児のつぶやきに 耳を傾けよう 会話を楽しもう

## 東北・北海道ブロック

平成23年10月29日(土)  
北海道▶札幌市立大通高等学校

## 東海・北陸ブロック

平成23年10月29日(土)  
愛知県▶名古屋市立第一幼稚園

## 近畿ブロック

平成23年10月19日(水)  
兵庫県▶神戸市立中央体育館

## 中国ブロック

平成23年10月8日(土)  
広島県▶三原市三原リージョンプラザ文化ホール

## 関東・甲信越ブロック

平成23年11月19日(土)  
山梨県▶山梨市民総合体育館

## 四国ブロック

平成23年10月27日(木)  
愛媛県▶伊予郡砥部町文化会館

## 九州ブロック

平成23年10月29日(土)  
佐賀県▶杵島郡江北町ふれあい交流センターネイブル

全国国公立幼稚園長会

# 今、なぜ、豊かな言葉なのか

「豊かな言葉は人との心地よいかかわりや心を動かす体験から」

会長 池田 多津美

人間にとって“豊かな言葉”は、人としてよりよく幸せに生きるために不可欠なものであり、「生きる力」の基盤をなすものと考えます。それは、幼児にとっても同様であり、義務教育及びその後の教育の基礎となっていきます。

幼児の言葉は、身近な人々に親しみをもって接し、自分の思いや考えなどを伝え、それに応答する相手の言葉を心に受け止めて聞くことを通して、次第に獲得されていくものだと考えます。したがって、幼児期には、家族や友達、教師や地域の人などのかかわり、心を動かす多様な体験を通して言葉を交わす喜びを味わえるようにしていくことが大切です。

しかし、今、少子核家族社会の中で幼児を取り巻く言語環境は決して望ましいとは言えません。とりわけ、言葉に関する感覚が磨かれ語彙が増える幼児期の、体験する内容や体験の仕方など「体験の質」にかかわることについては再考する必要性を感じています。

そこで、本会では平成23年度「遊びや生活を通して、子どもの豊かな言葉をはぐくむ」をテーマに、アンケートによる実態調査と全国7ブロックにおけるキャンペーン・研修会を行いました。そしてこの取組のまとめとして、幼児の言語環境を整えていくための3つの提言をしています。活用していただければ幸いです。

## 事業の ねらい

- 1 家庭や幼稚園における幼児の言葉の育ちに関する実態調査を行い、幼稚園と保護者が連携を図りながら幼児期にふさわしい言語環境を整える。〔教員・保護者を対象とするアンケート調査〕
- 2 親子体験型キャンペーン・研修会を実施し、幼稚園や家庭、地域が連携して幼児の健やかな成長を促す気運を醸成する。〔幼児と保護者、幼稚園教員と保育士を対象とし、全国7ブロックで言葉にかかわるキャンペーン・研修会の実施〕



## 「子どもの言葉に関する実態と意識についての調査」から 読み取れる教員・保護者の意識の傾向

(回答数：保護者1,477名、教員754名)

調査結果より、特に大切だと思われることを下記に示しました。

- **子どもの言葉や表現に関する設問では、教員・保護者共に約9割が子どもは『あいさつや返事を進んでする』『遊びに必要な言葉を使う』と捉えている。**一方『乱暴な言葉を使う』と認識している割合も高く、教員は約5割、保護者は約7割に達する。**子どもの言葉に関し、教員・保護者共に問題意識をもっている**と考えられる。
- **子どもと会話をする時に心がけていることに関する設問では、『ゆったりした気持ちで聞いたり話したりする』の項目で、教員・保護者共に〔当てはまる・だいたい当てはまる〕を合わせ約9割の回答を得た。**反面、〔当てはまる〕だけの数で比較すると、保護者の率は1割まで下がる。幼児とゆったりかかわることの**大切さは分かっているが、自分ができているかどうかについては自信がもてない**という気持ちの揺れが数に表れていると考えられる。
- **子どもに豊かな言葉をはぐくむために大切にしている体験に関する設問では、教員・保護者共に約9割が『同年代の友達とかかわる体験』『日常的な挨拶』『親子が触れ合う体験』を大切だと回答している。****日々の積み重ねの大切さを認識している**と考えられる。
- **絵本や童話の読み聞かせで大切にしていることに関する設問では、教員・保護者共に約9割が『自身が楽しんで読み、絵本の魅力を伝えている』を選択している。**一方『文字に興味があるので、自分で読ませるようにしている』と回答している保護者も約7割と高い。**絵本を通して幼児と触れ合うことの意義や絵本の価値・魅力などに関する理解が十分ではない**と考えられる。
- **子どもの言葉を豊かにするために幼稚園に希望することに関する設問では、『いろいろな体験を通して感性や表現力を育ててほしい』という回答とともに、保護者の約5割が『遊びや生活の中で言葉などで伝え合う経験』を選択している。****言葉による伝え合いの大切さを認識している**と考えられる。

※調査内容及び集計結果・考察については国公幼ホームページに掲載していますので、併せてご覧ください。

# 子どもたちに豊かな言葉をはぐくむために

## 提言1 幼稚園生活の中で、豊かな言葉をはぐくむ指導や環境の工夫をしよう。

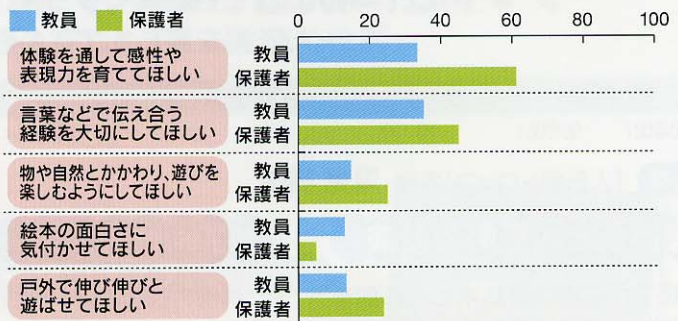
### そのために

- 幼児が言葉で自分の気持ちを伝える楽しさや心地よさを味わえる体験を意図的に積めるようにする。
- 言葉による伝え合いをはぐくむ環境や指導について、価値を共有し、指導計画に位置付けて実践する。

### 例えば

- 進んで戸外に出て体を動かしたり自然とかかわったりするなど、心を揺さぶる直接体験を豊かにする。
- ごっこや劇遊びなど、幼児同士が言葉のやりとりを楽しめる活動を工夫し充実させる。
- 絵本に興味や関心を深められるような図書コーナーなどの環境構成、教材研究をする。

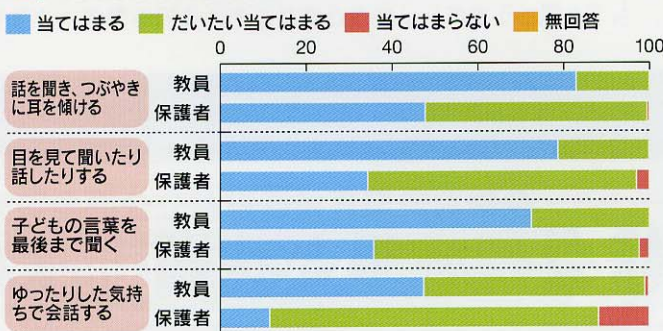
Q 子どもの言葉を豊かにするために、家庭や幼稚園に希望することはどのようなことですか。〔二択回答〕



➡ 保護者は、いろいろな体験とともに「言葉による伝え合い」など、集団生活ならではの体験を大切にしたいと考えている。

## 提言2 幼児期の言葉の育ちの大切さを保護者と共有し、親子のかかわりを深めよう。

Q 子どもと会話をするとき、あなた自身が心がけていることはどのようなことですか。



➡ 保護者には、幼児とのかかわりの大切さを理解しながらも、自信をもつまでに至らない心の揺れがある。

### そのために

- 体験を通して保護者自身が幼児に語りかける楽しさや大切さを実感できるようにする。
- 言葉遊びや絵本の価値、読み聞かせの意味や大切さへの理解をより深められるようにする。

### 例えば

- 親子で絵本を見たり、読み聞かせをしたりする機会を計画的につくり実施する。
- 講演会や園だよりなどを工夫し、幼児にゆったりとかかわることや心地よい言葉を使うことの大切さを保護者の心に響くように伝える。

## 提言3 地域と連携し、親子共に心豊かな体験を積めるようにしよう。

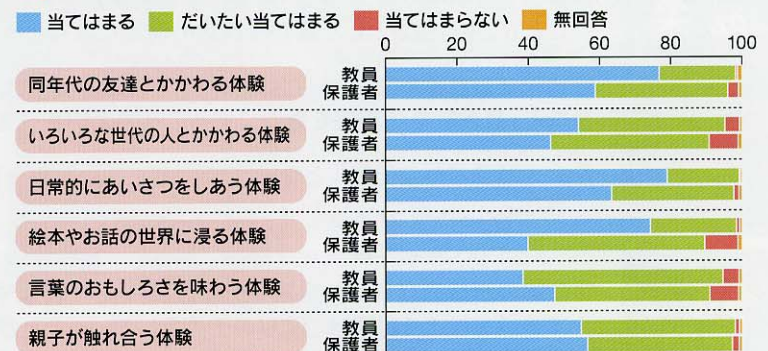
### そのために

- 地域の人と触れ合い、様々な人と会話をする楽しさを実感できるようにする。
- 地域性を生かし、様々な言語環境に出会うことができるようにする。

### 例えば

- 高齢者や中高生などいろいろな世代の人を園に招き、昔話を聞いたり会話を楽しんだりする。
- 地域の人とのかかわりの大切さを保護者に伝え、日常的に挨拶を交したり地域行事に参加したりできるようにする。
- 様々な人との交流の機会を通して、場や相手に応じた言葉を使えるようにする。

Q 子どもに豊かな言葉をはぐくむためにあなたが大切にしている体験は何ですか。



➡ 教員・保護者共に様々な体験や人との触れ合いが大切であると考えている。

## 豊かな言葉をはぐくむ

秋田 喜代美(東京大学大学院教育学研究科教授)

人はなにげない一言で傷つき、さりげない一言で元気や勇気をもらいます。言葉によって時には絆が生れ、また時にはトラブルのきっかけにもなります。言葉の豊かさとは、出会った人やもの、こととのつながりが深まっていく過程に関わります。豊かな言葉は、語彙の量の多さや言葉数の多い、饒舌さ、立派な話し方などの表面的な様相ではなく、相手を気づかたり、その状況にもっともピッタリの言葉、その人ならではの言葉が発されてやりとりされる、意味が生れる瞬間にあります。それは、言葉だけではなく、豊かな経験の裏付けがあって初めて生まれてくる言葉と言えます。出来事の端(ことのは)として表れる氷山の一角としての言葉です。情報が氾濫する社会において、私たちが子どもたちに幼児期にこそ培いたい豊かな言葉とは、遊びや暮らしを通して言葉の働きの重みを子どもなりに感じたり、言語文化にふれたりすることでしょう。異なる考えを持つ相手との葛藤のなかで、折り合いをつけるために言葉を交わし合うことで伝え合うとはどのようなことがわかったり、自分の発した一言に誇りを持ったり心を痛めたりすることを通して自己が形成されていきます。絵本等の読み声に仲間と共に耳を傾けることで、自分たちが日々の生活で使っている言葉だけではなく、言葉が創り出すリズムや響きに心地よさを感じたり、想像の世界を思い描き、新たな言葉をわがものとしていく過程は、メディアから一方向的に流れてくる情報とは異なる質のものであることを、体験していくことが必要です。

言葉には伝え合うコミュニケーションの働きと言葉により物事を考えあらかず働きの2つの機能があります。いずれもが、生涯の幸せな生活のための基盤を培う幼児期にこそ、はぐくみたい経験です。そのモデルになるのは、保護者や保育者であり、園の仲間です。子どもたちが美しい言葉の担い手になるためには、大人が何よりもまずよい聴き手になって、子どもが相手に聴いてもらう心地よさを感じることを、そして伝えたいと思う内容が生れること、そして相手に心を配る温かな言葉、物事の差異を繊細に表す美しい日本語表現を使って大人が子どもに語りかけることで、伝え合う楽しさを実感できることが大切です。子どもたちが身体や声を通して発している言葉をどのように受け止めているのでしょうか。言葉ではすべてを言い表せないからこそ、身体表現や語らない沈黙も含め、聴き合う関係こそがコミュニケーションの出発点です。暮らしの中で、興味があり意味あることについて話す、聴く、読む、書く経験によって、子どもたちの言葉は育ちます。言葉に関わるさまざまな環境としてどのような環境を用意し、また子どもと共に構成しているのでしょうか。

「ことばを育てることは ころを育てること 人を育てること 教育そのものである」という大村はまの言葉の意味を、目の前の子どもたちの言葉に耳を傾けながら振り返り、考えてみませんか。

### 編集・執筆 特別事業推進委員

委員長	大橋由美子	浦安市立舞浜幼稚園
副委員長	藤方 洋子	墨田区立八広幼稚園
委員	高橋 慶子	目黒区立みどりがおか幼稚園
委員	仲田 恵	江東区立ひばり幼稚園
委員	落合 麻里	浦安市立堀江幼稚園
国公幼会長	池田多津美	港区立白金台幼稚園
同事務局長	楚阪 博	国公幼事務局

### 特別事業ブロック委員

東北・北海道	田崎 栄子	札幌市立たいへいみなみ幼稚園
関東・甲信越	藤本 俊	山梨大学教育人間科学部附属幼稚園
東海・北 陸	鈴木 照美	名古屋市立第一幼稚園
近 畿	中川 美幸	神戸市立兵庫くすのき幼稚園
中 国	金岡 美幸	広島大学附属三原幼稚園
四 国	川島 公江	砥部町立宮内幼稚園
九 州	松本真理子	伊万里市立波多津東幼稚園

発行日 平成24年3月10日

編集発行 全国国公立幼稚園長会 会長 池田 多津美

住 所 〒113-0034  
東京都文京区湯島1-5-28  
ナーベルお茶の水208

電 話 03(5684)2240

F A X 03(5684)2174

Eメール entyoukai@kokkoyo.com

ホームページ <http://www.kokkoyo.com>